



# ボランティア

8  
2024

家族に会える  
安全な逃げ道とは



「募金」が「地域」を  
よくなるしくみ

## 【特集】大震災時のこどもの安全・安心を考える「あさっこ会」

むぐるま きみこ

代表 六車 貴美子 さん(写真左から3番目) 会員の皆さま

令和6年度  
杉並区社会福祉協議会  
地域福祉活動費  
助成金事業

3面・・・能登半島支援 今、私たちにできること  
福祉授業 報告

4面・・・夏のボランティア体験2024 手話・点字 紹介  
傾聴ボランティアのご案内

この情報紙は、区内のボランティアの方々に、  
宛名シール貼り、封入作業を行っていただき、発行しています。  
いつもご協力ありがとうございます。

## 【特集企画】

# 地域づくりの最前線 ～そのチャレンジ！応援します～

**大震災時のこどもの安全・安心を考える「あさっこ会」**（以下、あさっこ会）は、杉並区まちづくり助成団体として、代表の六車（むぐるま）さんを中心に、防災の面からまちの安心・安全を考える必要性を感じたことがきっかけで2017年に設立。5名のメンバーから活動が始まり、現在は会の趣旨に賛同したメンバー14名で、「子どもを大切に思うまちは、誰にとってもやさしいまち」という気持ちを持って活動しています（現在はまちづくりを行うことを目的とした、杉並区まちづくり団体として登録）。

## 団体の活動内容

あさっこ会では、杉並社協の助成金事業である「逃げ地図づくりワークショップ」を実施する他、まち歩きと防災マップ作り、夜間避難訓練を兼ねたセミの羽化観察会の開催、「おうちで防災訓練&防災ごはん」で各家庭内防災力向上の普及啓発、子育て世帯向け防災講座も行っています。

あさっこ会という名前は、親しみやすいように阿佐谷・天沼・高円寺の頭文字を入れて名付けられました。この地域は、区内でも交通の便が良く、住民同士のつながりもあり住みやすい地域ですが、行き止まりや入り組んだ狭い道路が多く、木造住宅が立ち並ぶ「木造密集地域(略して木密地域)」が一部に存在しています。木密地域は、大震災時に大規模火災になる危険もあります。ここに住む子どもたちや高齢者が、将来にわたって安心して住むことができるようなまちが、誰にとってもやさしいまちであるという思いで活動しています。

## あなたの避難経路は安全ですか？

「逃げ地図」とは、災害時に避難者が集中して普段のような速さで歩けなくなることから、高齢者の歩く速さで避難場所まで歩いてたどり着ける経路を3分ごとに色分けして、避難方向を図示した「時間避難距離地図」、または「避難地形時間地図」の通称です。震災救援所や井戸等の防災資源が載っている「防災マップ」とは似ているようで異なります。この「逃げ地図」は東日本大震災の際、被災地にボランティアに入った設計会社の職員が、専門家として災害時の避難経路をシミュレーションし生まれました。

家族で決めた避難場所や、震災救援所は防災マップで分かります。一方で、「逃げ地図」は、安全な避難場所にどのくらいの時間で逃げられるのかを可視化したものです。通れる道路が混雑している、家が崩れて道路をふさいでいる、火災が起きている、行き止まり、急勾配の坂等、様々な障壁を想定しています。「逃げ地図」づくりは、自分の地域を知るきっかけや、自分と家族を守るための気づきにつながる取り組みで、これからのまちづくりにもつながっていくと考えています。

杉並ボランティアセンターでは、「地域福祉活動費助成金」を通して、地域で活動する団体を応援しています。

今回はその中の一つ、**チャレンジ応援助成団体※** 大震災時のこどもの安全・安心を考える「あさっこ会」の副代表・田口文昭さん、メンバー・本村敏則さん、メンバー・北村美幸さんにお話を伺いました。

※チャレンジ応援助成とは…新規の活動を応援するための助成金。地域の方々からの善意で集まった歳末たすけあい運動募金が原資になっています。

## 親子で気づくワークショップ

先月7月26日には、今年度第1回目となる「逃げ地図づくり夏休みワークショップ」を開催し、大学生スタッフや杉並区防災課の職員を含む14名の方が逃げ地図づくりを体験しました。参加をした小学生の親子からは「子どもと楽しく学べてよかった」「またつくりたい!」という感想をいただきました。

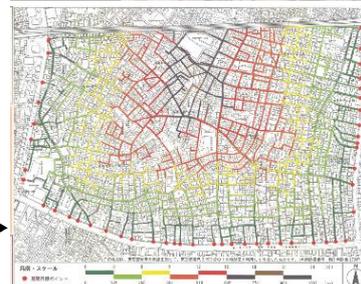
今回は8月20日に開催します。このイベントを通して、防災のこと、災害時の避難、安全なまちについて自分で気づき、親子で考えるきっかけになれば嬉しいです。



▲逃げ地図づくりの様子



避難時間を色分けした「逃げ地図」▶



## 今後について

都内で「逃げ地図」に取り組んでいる団体はほとんどありません。阿佐谷・天沼・高円寺を団体名に入れていますが、「逃げ地図づくりのあさっこ会」として、区内の様々な地域から「逃げ地図づくり」をやりたいと声を掛けてもらえるようになりたいです。現在は「まちづくり博覧会」等のイベントに参加していますが、私たちが積極的に出ていくことで、より多くの皆様に「逃げ地図づくり」を体験していただき、地域の方に発災時の地域がどうなるかを知る機会になってもらえたらと思います。

また、防災士の資格を持っているメンバーもいます。防災について、地域のコミュニティや学校などで、お話をさせていただく機会が増えるよう努力していきたいと思っています。

地域や災害の問題は、年代や性別を問わず誰もが関わることです。これからも、この「逃げ地図」づくりを通して地域の様々な年代の方がつながる機会をつくっていききたいと思っています。

大震災時のこどもの安全・安心を  
考える 「あさっこ会」

HP : <https://asacco-kai.jimdofree.com/>





## 今、私たちにできること

令和6年1月1日に発生した能登半島地震では、たくさんの方が被災されました。ポラン・てでは、「その時に被災地が求めている支援」、「私たちができる支援」を紹介していきます。



### 石川県内の福祉作業所製品を購入しませんか？

石川県の中でも大きな被害のあった輪島市には、障害のある方々が、作業所で製造・生産をした製品を販売している福祉作業所があります。

ご紹介するのは、能登半島地震により事業所の一部に被害が発生した**特定非営利活動法人 あすなろふたばぱいんの会**です。あすなろふたばぱいんの会では、知的障害のある方、精神障害のある方が自立した地域生活を目指して、作業されています。

また、あすなろふたばぱいんの会では、地震の被害を奇跡的に免れたコーヒー豆の焙煎機を活用しながら、コーヒー豆を仕入れ、作業所内で利用者さんが直火自家焙煎をして、販売しています。

コーヒー豆の種類や、ご注文方法はぜひHPをご覧ください！



<http://www.asunarofutaba.info/>

杉並から能登半島の商品を買って  
支援をしていきましょう！

## 区内小中高等学校にて

### 福祉体験・ボランティアについての授業を実施しました



杉並ボランティアセンターでは福祉教育の一環で、学校等から依頼をいただき、福祉に関する授業や体験を実施しています。

6月27日(木)には、西田小学校の4年生約100人を対象に、「車いす、高齢者模擬体験授業」を、杉並ボランティアセンター職員、ケア24南荻窪の職員、そしてボランティアである「うえる隊」と一緒に実施しました。

高齢者模擬体験をした児童からは「高齢になると動くことがおっくうになり、耳が遠くなり、大変なことが増える。何か困ったことがあれば手伝いたい」との感想があり、高齢者の気持ちに寄り添うことや、困りごとに気づく授業となりました。

うえる隊は杉並ボランティアセンターで養成した、福祉教育について学んだ地域のボランティアです。学校等の福祉体験授業の際には、うえる隊の協力を得て実施しています。

今回の西田小でも4名のうえる隊員が活躍されました。

また、6月28日(金)には西宮中学校、7月4日(木)には高南中学校、7月12日(金)には杉並高校において、「ボランティア」というテーマを通して、私たちが身近にできることを考える機会とする、ボランティアについての授業を行いました。生徒の皆さんからは「自分でもできると思った」「ボランティアのハードルが下がった」という声がたくさん聞かれました。



◀高齢者模擬体験をして昇降口を歩きました。

▼うえる隊にもご活躍いただきました。



今回実施した高齢者模擬体験や車いす体験、ボランティア講話以外にも、手話や点字、白杖を使い視覚障害者の方と一緒に歩く際のガイド役をする手引き体験や、障害当事者の講師紹介もしています！いつでもご相談ください！

必見

## MADE IN 杉並

区内の福祉施設や団体で作っているオススメの製品・作品を紹介します。お気軽にお問合せください！



ナミスケの使用許可をいただいて、希望の家の仲間たちと一緒に作成しています。希望の家と区役所内コミュカルショップで販売中！



杉並希望の家(久我山5-36-17)  
TEL: 03-3335-3774  
<https://www.kibounoie.net/>

# 夏のボランティア体験2024 開催中

当センターでは、夏のボランティア体験2024（夏ボラ）を開催しています。すでに実施した手話・点字の体験プログラムでは、小学生から60代の方まで幅広くご参加いただきました。



7/26 手話体験（協力：手話サークル杉の会）参加者：13名



8/2 点字体験（協力：視覚障害者支援総合センターチャレンジ）参加者：14名



点字プログラムは8/21（水）にも開催！ご応募お待ちしております！

あなたの好きなこと、思い出、悩み、

## 傾聴ボランティアに話してみませんか

傾聴ボランティアとは、あなたのお話に耳を傾け、お話を「聴く」ことで、あなたの気持ちに寄り添うボランティア活動です。ご自宅や福祉施設等で、あなたのお話をゆっくりお聴きします。

あなたのお話を聴くのは、すぎなみ地域大学等で傾聴について学んだ地域のボランティアです。現在、杉並区内では13グループが活動しています。

個人の方、福祉施設の方、傾聴をご希望の方は、まずは杉並ボランティアセンターまでご相談ください。



## 杉並のボランティア情報紙「ボラン・て」

発行：社会福祉法人 杉並区社会福祉協議会  
杉並ボランティアセンター

〒167-0032 杉並区天沼3-19-16 ウェルファーム杉並4階

TEL: 03-5347-3939 FAX: 03-5347-2063

メール: info@borasen.jp ホームページ: http://borasen.jp

うえるくん  
杉並社協のイメージキャラクター

開所時間：火～土曜日  
8:30～17:00

\* 祝日・年末年始はお休みです。



情報紙「ボラン・て」は、次の区内各所にも置いてありますのでご利用ください。区役所・区民集会所・区民事務所・地域区民センター・一部のゆうゆう館・図書館・駅スタンド（区内JR、地下鉄丸の内線など）・他